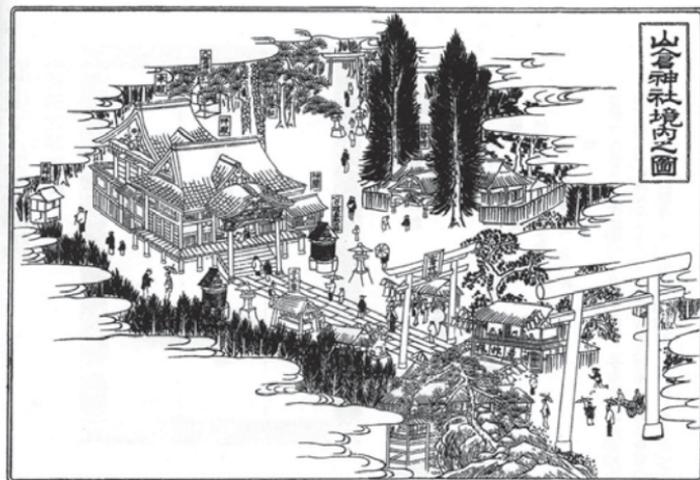


香取遺産

Vol.66

「山倉大神」

古来より伝わる鮭献納の神事



▲「山倉神社略縁起」(明治24年伊藤泰歳編)より

山倉地区に鎮座する山倉大神は、市内外から広く参詣者が訪れる当地随一の古社です。特に、12月第1日曜日に行われる初卯大祭は、「山倉の鮭祭り」(県指定無形民俗文化財)として有名で、多くの

人にてぎわいます。栗山川支流に遡上してきた鮭を献納する祭りで、その謂れは諸説があり定かではありませんが、神前に献じる鮭は、古来より「竜宮神献の御鮭」として伝えられています。

江戸後期の『下総名勝図絵』でも「御神事十一月中の卯の日なり。疫病を悩むもの此の神を祈りて靈験すみやかなり。十一月祭礼の頃、鮭おのづから上る。是を獲たる人、山倉に持ち行くに、その人を祭礼の上席に居らしめて饗応する古例なり」と紹介しています。

本殿(市指定文化財)は安永7年(1778)3月5日建立、木造銅板葺、本殿と拜殿の間を幣殿で繋ぐ、権現造とも呼ばれる複合施設です。

社伝によれば、山倉大神の創建は、弘仁2年(811)辛卯の霜月(旧曆十一月)初卯の日で、この地方に疫病が流行した際に、ご祭神を勧請したとされます。現在の主祭神は高皇産靈大神、配祀神は建速須佐男尊、大國主尊です。

明治以前までは、当地の山倉山観福寺が別当を務め、本尊である大六天王が本地仏として祀られていたことから、「山倉大六天」などと知られていました。山倉大神を称するのは明治3年(1870)からで、神仏分離により大六天王が観福寺に遷座された後になります。拜殿中央に掲げ

られた文政9年(1826)寄進の社号額にも「大六天王宮」とあります。

山倉大神は、かつて代参講により、東京や横浜などの講中の崇敬を受けていました。それは境内の寄進物などからわかります。例えば、額殿には心力元講、賽銭箱や手洗石には昭和講、神輿殿は江東講などの講名が記されています。その他多数の額などが講中により奉納されています。

また、江戸東京火消(消防組)の奉納額なども残されています。消防組が参詣した理由は不明ですが、地元の人によると、刺子を着た消防組が「木遣り」を歌いながら行列を組んで社殿に参拝したこともあったそうです。

問い合わせ
生涯学習課

☎(50)1224